

防災ラジオドラマ

グループ名「倉敷市立味野中学校 演劇部」

タイトル 「その夜、嵐は2つきた！ ～僕の夏休みの宿題は…」

かあさん（怒鳴り声）：なんでこんなに宿題がのこつとんよ！ 明日で夏休

みは終わるんでく。あんた、今日はもう徹夜で宿題、やんなさくくしい！！（怒）

♪ タイトル曲

ナレーション：防災ラジオドラマ「その夜、嵐は2つきた！僕の夏休みの宿題は…」

しんご：徹夜かあ

♪ 激しい雨音

しんご：その夜、嵐は2つきた。ひとつは僕の母さん。そして、本物の大型台風16号

アナウンサー：非常に強い勢力を持った台風16号は、現在高知県西部を通過している模様で、岡山県何部も今夜半、暴風雨圏内に入る模様です。沿岸部では高潮に注意してー（プチッ）

しんご：あつ！電気、消えた！！

かあさん：あらま、停電じゃが。懐中電灯はどこで？

とうさん：本箱の下の引き出しじゃ。

かあさん：おとうさんのいうたところに物があつたためしなからなあ

♪ ごそごそごとつんと物の当たる音

かあさん：いたあ〜、もう、なんで、あ、本箱か。
とうさん：おれのあたまじゃ

かあさん：いたあ〜 どんだけ石頭なん。もう！で、ありやへんで。懐中電灯。
ほんま、ちゃんとしまいねえ！

♪ フラッシュ音(きつとつかみあつてる夫婦の写真が映っていいだろう)

かあさん： こらシン、こんなとこ写真とるんじゃないく！宿題しなさい！しんご：まっくらやのに、できるわけないで！（聴取者に）と、僕は勝ち誇った気分だった。しかし、その夜はちよつと違った。展開が、僕ら家族を、いや、僕の町内を待っていた。1時間後

♪ さらに激しい雨音

とうさん： 電気つかんし、懐中電灯ないし、テレビつかんかったら、暇でしようがねえ。もうねようで。

しんご： さんせーい

かあさん： ったくう、この子ったら、宿題せんでええと思つて。電気ついたらすぐにするんで！それにしても、台風どうなつとるんじゃないやろなあ。

しんご： あー、懐中電灯ここにあった！ちよつと外見てくる。おれもー、おろこりやすげえ。大変じゃ。あーっ！道がない！か、川じゃく声： しんごー

♪ 火サスのテーマ

しんご： え？ケンさん？

しんご(声)： 灯りの中に見えたのは隣のケン兄さんだった。

ケン： 泳げるで、ここ。しんごも来いよ。

しんご： ええく？なんでこんなことになるんで？停電前は道だったのに

しんご： そのころ、うちの近所ではいろんなことが、起こっていた。一人暮らしのさつきばあちゃんは、町内最高齢の90歳。その晩、ベッドで寝ていたばあちゃんは・・・。

♪ 柱時計の音。2時を伝える

さつきばあちゃん：ううくん。ありや、まだ朝じゃないんか。どっこらしよ。どれ、便所にも行つてこようかのう。あれ？枕もとの電気がつかんが。よっこらしよ。

♪ ぴちゃんという水音

ばあちゃん：足、つめた？ え？ ありや？ (じゃぼじゃぼいう水音) あ

りや、こりや、わやじゃが。家の中が水浸しじゃがあ。

シンゴ(声) 西隣の平屋建ての近藤さんち、夫婦で、やはり、爆睡中だった。

近藤のおばさん：うん。ん？ なに、なんか、おしりつめた。ちよつと、ちよつと、あんた、ええ年しておねしょとん？

近藤のおじさん：なにぬれぎぬきせるんじゃ。ありや、ほんまにぬれ…？ つめた！

近藤のおばさん：ええええええ？ こりや布団がびしょじゃが。み、み、水がきとる？

近藤のおじさん：ありやううう！！ くらうてようわからんけど、こりや水じゃ！

おい、ねとる場合じゃないで！ (じゃぼじゃぼいう水音) この

ままじゃ、おぼれ死ぬうう

シンゴ(声) : 東隣の平屋建てに住む田中のおじさんとおばさん、ラジオを聞いていた。小学生の翔太くと、りさちゃんはねていたらしい。

ラジオの声 : (雑音) 岡山県南の海に面している地域では、高潮の影響で、浸水している地域がある模様です。(雑音)

田中のおじさん：そんな、どうすりやいいか、ラジオ、言ってくれんかのう。

田中のおばさん：ピンポイントの情報がわからんなあ。消防も何をやっとなかな…

あっ！おとうさん、ちよつと、あれなんで？ ドアのところ？

♪ どーっつと言う水音。

田中のおばさん：水が流れこんどる！ ちよつとちよつと

田中のおじさん：こつち来たでー

2人 : ありえうううん！！

田中のおじさん：おい、避難じゃ！ り、りさは？ 翔太は？

隣室からの翔太の声：もう避難してるよ、2階に！

田中のおばさん：うちに2階なんかないでしょー！

翔太 : それがあるんだよ！ 2段ベッドの2階！

2人 : あああ(フアブリーズで)

と、ジャバジャバいう音。2人が隣室に移動しているらしい。

田中のおばさん：いやあ、2階あつてよかつたわ。

りさ : 家族4人、ちよつと狭いけど

全員 : おやすみなさうい！

シンゴ(声) : その夜は、高潮で町内のほとんどの家が床上浸水をしていたというのは後で聞いた話。

♪ 翌朝。小鳥のさえずり。と同時に人々のざわめき。

りさ : うわ！ 魚がこんなところに落ちとる？！

近藤のおじさん：高潮のせいじゃ。

ケン …おれのジェットスキー、なんで田中さんちの庭にあるわけ？

近藤のおじさん …高潮のせいじゃ。

田中のおじさん …ていうか、なんでうちの車、こんなに曲がって駐車しとるわけ？

近藤のおじさん …高潮のせいじゃ。水で、浮いたんじゃ。

ケン …や、やば！俺の車、動くかなあ？…だめじゃ〜

田中のおじさん …うちもダメじゃー

近藤のおじさん …ダメじゃー

2人後で気がついて、ダメじゃのう。

ケン …泳いでるひまにや、車、動かしとけば良かった。

さつきばあちゃん …あんたら、すまんけどのう、うちの畳全部あげてくれんかのう？

近藤のおばさん …うちも、畳全部だしてな。

田中のおばさん …濡れた畳、めっちゃ重いのよ。さつきおばあちゃんところから先に出してあげて。

かあさん …シンゴ、宿題はいつでもいいから、手伝いなさい！

シンゴ（声） …そのあと僕は、中学生になってから、話すことが少なくなっていた近所の人と、畳を運び、片づけをした。昼には、かあさんがつくったにぎりめしを、床下浸水ですんだ僕のうちでみんなで食べた。…うまかったー！

かあさん …100個はつくったでー！

シンゴ（声） …みんなで協力したけど、片づけには1週間かかった。あれから7年。近くの海岸線には堤防が築かれた。新築の家は盛り土して建てている。車の避難所が近所の高台の空き地に指定された。…そして、僕は、春から消防士になる。町内も変わったけど、でも、一番変わったのは、僕たちだ。父さん懐中電灯の置き場所は、本箱の引き出し。

田中のおばさん …防災ラジオを買ったで。

りさ・翔太 …二段ベッドは、そのままやでー。

さつきばあちゃん …台風の時は、ケンちゃん達が見に来てくれるようになった。

ケンちゃん …ばあちゃん、100まで生きなよ。オレ、いつでも避難所はこんなじゃるで。

シンゴ …そうだ、僕たちは、「助け合う」ということを始めた。

近藤のおじさん …高潮のおかげじゃ。

シンゴ …そして、僕の宿題は…

かあさん …こら、シンゴ！なんで、まだ夏休みの宿題がおわつとらんのか？

もう10月よ、10月！今日はもう徹夜で宿題やんなさーい！

（落雷）

シンゴ

：いつでもいいっていったのにくらくら。

(声) これだけは、誰も助けてくれなかった。

エンディング曲流れる。